

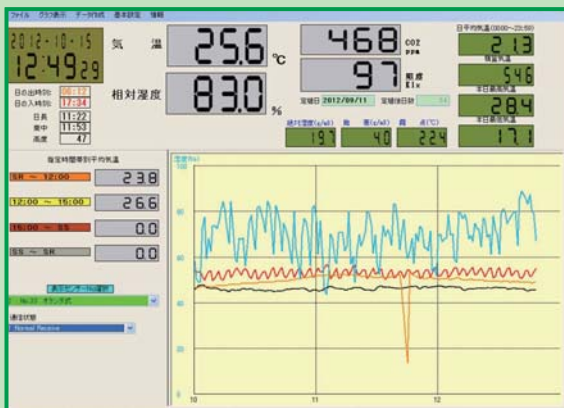
高軒高ハウスにおける促成パプリカの 環境制御による多収生産技術の研究



高軒高ハウスの外観



パプリカの養液・土耕栽培



ハウス内環境のモニタリング
(気温、湿度、CO₂濃度、照度など)



遮光スクリーンと細霧装置による
温湿度制御

高知県の施設園芸は収益性の低下や後継者不足などの問題を抱え、今後の生産量低下が心配されています。そこで、園芸産地として維持・拡大していくためには、既存型ハウスでの生産技術の向上と併せ、経営規模の拡大や企業的経営の導入を視野に入れた、高軒高ハウスによる先進的な生産システムを検証していくことも必要と考えられます。

しかし、高知県のような温暖地での高軒高ハウスにおける気象環境特性については明らかにされておらず、また、オランダでは標準となっている環境制御技術は、日本での導入事例が少なく、生産性の向上に関する検討もほとんど行われていませんでした。

そこで、環境制御が容易で光利用効率の向上が期待できる高軒高ハウスでの環境制御による多収生産技術を課題化しました。本研究では、軒高4mのハウスを用い、温室内の気象環境特性の把握と、温度、湿度制御およびCO₂施用による多収生産技術の確立に取り組みます。

今年度の試験では、オランダと日本それぞれの温度管理法でパプリカを栽培し、ハウス内環境の違いや生育、収量などについて比較することにより、高知県の気象特性に適応した環境制御技術の開発を行っています。また、循環型養液栽培による生産技術の開発にも取り組んでいます。

(施設野菜担当 橋田祐二 088-863-4918)